

○中島分科員

今、リニア中央新幹線の話も出ましたので、これは一点、大臣にお聞きしたいんです。大臣、リニアの試乗もされたと思います。その感想も含めてですが、先ほどの南アルプスのユネスコエコパークは、昨年六月に登録承認をされました。まさに、リニアモーターカーは、その南アルプスを貫通するトンネルをつくられる。そして、私は今年の六月に環境委員会で環境大臣にもお聞きしたんですが、地元では、もちろんリニアの開通というのは念願でございましたので大変喜ばしいことではあるわけですが、南アルプスは、エコパークにも登録されましたように、自然豊かな、そして南アルプスの天然水もある。そういった水脈系に本当に影響がないのか。そして、残土ですね。長い区間のトンネルを掘るといことで、その残土が、エコパークは、緩衝地域、核心地域と移行して、人間と自然との共存ということをやっているわけですが、本当にそういう懸念が払拭されるのか、地元では大変不安もあるということなんです。

リニアへの試乗の感想と、国交大臣といたしまして環境保全に対する認識、その辺について御答弁をいただきたいと思っております。

○太田国務大臣 二十五年八月に山梨の超電導リニア実験線に試乗して、五百キロを体験させていただきましたが、圧迫感もなく、新幹線と同様という感じがいたしまして、ある意味では非常に安心して乗れる乗り物であろうという感じがいたしました。日本の技術力というのはすごいなということを感じました。

今の局面は、上の、走る技術水準はもう実証された。今度は、トンネルを中心にした、掘る、土木技術の世界ということなんです。私は土木屋なものですから、いよいよ日本の土木屋を挙げて、土木学会の会員でもあります。勝負に入ったと。千四百メートルの土かぶり下を、圧力のある中をくりぬくという土木技術。そして、今御指摘のありましたように、残土というものを適切にする、それを運ぶという道路の確保。そのときに、さまざまな環境への障害をなくしていく。

そうした中で、しかもここはユネスコエコパーク認定ということもありますから、さまざまな意味で、とにかく環境保全について配慮が適切になされるよう、我々は環境省と連携しながらJR東海をしっかりと指導監督していきたい、このように思っています。

課題はさまざまありますが、日本の技術水準からいくとこれはクリアできると、私は土木屋の一人として感じております。

○中島分科員 これは、言うまでもなく自然破壊ですね。一度壊されてしまったら、元に戻すまでに時間がかかってしまったり、もしくは二度と戻らないということも懸念されます。今、力強い御発言をいただきましたので、ぜひ丁寧かつ慎重に進めていただきたいというふうに思います。

山梨県の場合は、リニアの開通の部分はほとんどトンネルなわけですが、一方で、山梨県の数十キロにわたっては平地を走る、そういう計画にもなっております。今、その用地買収に関しましても、ちょうどその部分のところが高齢化率が高い地域でございます。そして、買収に至っても、移転ということがなかなか困難な御高齢の方々もたくさんおられるということで、その辺についても慎重かつ丁寧にぜひ進めていただけますように、JRの方にも御指導していただきたいというふうに思います。